



東北の絵馬

TOHOKU NO EMA

担当 櫛田公平



蹄の音が
聞こえてきそう!

- 寸 法: 幅13.5cm × 高さ10.2cm × 厚さ0.7cm
- 材 質: 木

絵馬とは?

絵馬は一説によると、神社に神馬として生きた馬を捧げる古代の風習にあったとされており、やがて、その代用として絵馬を奉納するようになったといわれています。絵馬に描かれる馬は神の乗り物としての神馬だけでなく、農民にとっては耕作に使う馬に対する安全・守護を祈る目的として奉納されました。

小高神社の絵馬

本資料は、福島県南相馬市小高区おだかじんじやの小高神社から授与された絵馬です。この絵馬には、衣装・馬具に身を包んでおらず、色はぬられていない2頭の馬の走る様子が絵馬の右部から中央部にかけて墨で描かれているのが特徴です。上部中央には「相馬妙見本宮小高神社」と神社名が書かれており、その左側には御朱印が押されています。絵馬の左部には「福島県相馬郡小高町鎮座」とこの神社が鎮座された地名が墨で書かれています。

この雄姿、
ご覧あれ!



- 寸 法: 幅26.2cm × 高さ12.7cm × 厚さ0.7cm
- 材 質: 木

駒形神社の絵馬

本資料は、現在の岩手県奥州市(旧水沢市)の駒形こまがた神社から授与された絵馬です。この絵馬には、黒の身体に白いたてがみの1頭の馬が、赤を基調としたとてもきらびやかな衣装・馬具に身を包んだ姿で、絵馬の中央部分に大きく堂々と描かれているのが特徴です。絵馬の左部中央には地名を指す「水沢」の文字が書かれており、その上に印が押されています。右部中央には、神社名を示す「駒形神社」と書かれた紙が貼られています。上部には「南部駒」と書かれた紙が貼られています。

引用・参考
・岩井宏實 1974 「絵馬」『ものと人間の文化史12』 法政大学出版局